

サケ

Oncorhynchus keta (Walbaum)
サケ目・サケ科

【福井県カテゴリー】新：県域準絶滅危惧 旧：県域準絶滅危惧

【環境省カテゴリー】—

選定理由

全国的には減少していない種であるが、人工ふ化放流事業に依存している。福井県においては、かつて多くの個体が各河川に遡上していたが激減し、近年は各河川ともに個体群サイズが小さいまま推移している。

種の特徴

全長 65 cm 程度。体色は、産卵時期の秋季には黒色・灰黒色・暗緑色の混じった不規則な雲状紋を呈する。遡河回遊魚であり、ふ化した稚魚は海へ下り、海で成長した後、秋季に河川へ遡上し中流域のれき底で産卵する。

分 布

日本海側では九州北部以北、太平洋側では利根川以北に分布する。本県では、北潟湖・九頭竜川水系・三方湖・北川・南川・佐分利川等で確認されている。

生息を脅かす要因

堰堤等の河川横断工作物による遡上の阻害、川岸の護岸や水質の悪化等の生息環境の悪化、泥やシルト等が河床に堆積することによる産卵環境の悪化等が挙げられる。また、遡上期に密漁者も散見される。

参考文献 福井県編 (2002)、環境省編 (2014)、中坊編 (2013)、川那部ら (2005)

市 町 別 生息情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
	○	○	○	○	○			○		○			○	○	○		○

カジカ大卵型

Cottus pollux Günther
カサゴ目・カジカ科

【福井県カテゴリー】新：県域準絶滅危惧 旧：県域準絶滅危惧

【環境省カテゴリー】準絶滅危惧

選定理由

県内に広く分布するが、ごく限定された場所でのみ確認され、個体群がかなり小さい状況にある。河川改修により主要な生息場が極めて減少している。

種の特徴

全長 10cm。水の澄んだ河川の上流域～中流域上部に生息する。瀬のれき底に潜み、主に水生昆虫、底生の小甲殻類を餌とする。産卵期は3～6月、卵は大型でふ化後生涯を河川で過ごす。胸鰭条数は12～14条で多くは13条である。

分 布

本州～九州地方の河川の中～上流域に生息し、河川で生活史を完結する河川陸封型の生活史を持つ。本県では大小多くの河川に分布したが、近年減少がいちじるしい。

生息を脅かす要因

森林伐採、河川開発、道路建設等の流域開発にともなう生息環境の劣化や単純化に加えて、ダム等の河川横断工作物による生息地の分断や集団の孤立化により減少している。

参考文献 環境省編 (2015)、福井県編 (2002)

市 町 別 生息情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

ヤリタナゴ

Tanakia lanceolata (Temminck & Schlegel)
コイ目・コイ科

【福井県カテゴリー】新：要注目 旧：—

【環境省カテゴリー】準絶滅危惧

選定理由

生息環境の悪化や破壊によって生息地・生息数とも減少傾向にある。また、本県で最大の生息地である九頭竜川水系に同属のアブラボテが移入され、交雑も確認されている。九頭竜川水系でアブラボテとの交雑は、今後も拡大し進行する可能性がある。

種の特徴

全長6～10cm。体高はやや低く、長い口髭を持つ。側線は完全。背鰭の条間膜に黒色の斑紋がある。平野部の細流や水路に生息する。産卵期は春～初夏で中型の二枚貝（マツカサガイ・カタハガイ等）に産卵する。食性は雑食性で付着藻類や底生動物を食べる。

分 布

北海道と離島を除く全国に分布する。ただし、東北地方太平洋側のものは移入の可能性が残る。本県ではあわら市～高浜町までの平野部に広く分布・生息する。

生息を脅かす要因

圃場整備や河川改修工事等による生息環境の破壊・消失と、産卵母貝が減少したことが最も大きな要因だと思われる。また、九頭竜川水系に同属のアブラボテが移入されたことで、本種との雑種化が進行する可能性もある。

参考文献 環境省編 (2015)、福井県編 (2002)、中坊編 (2013)、川那部ら (2005)、斎藤・川崎 (2015)、黒澤 (2009)、石津 (2007)

市 町 別 生息情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
	○	○	○			○	○		○	○	○	○	○	○	○	○	○

淡水魚類